

(様式 3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	群馬県	市町村名	桐生市	大学名	
派遣日	令和5年9月14日(木曜日) 14:30~16:30 14時00分~打合せ。14時20分~講義準備。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣 / <input type="checkbox"/> 遠隔				
派遣場所	桐生市役所 群馬県桐生市織姫町1番1号 501会議室				
アドバイザー氏名	横浜市教育委員会事務局 小中学校企画課 指導主事 横溝 亮 様				
相談者	桐生市教育委員会学校教育課				
相談内容	<p>市内各校に1名~7名程度在籍している日本語指導が必要な児童生徒へ3名の日本語指導担当者が、巡回指導を行っている。</p> <p>個々の児童生徒の実態に合わせ、指導者の指導可能な時間を効率よく適切に配分し、これまで以上に児童生徒のニーズに合った指導、支援をしていくことに課題がある。そうした課題の解決に向け、児童生徒の実態を客観的かつ的確に把握することができるDLAを各指導者が実施できるよう、ご講義をいただきたい。</p>				
派遣者からの指導助言内容	<p>○横浜市の外国につながる児童生徒の現状について。</p> <p>国の動向と同様、増加傾向にある。令和5年度は、日本語指導が必要な児童生徒数は、3692人。国の調査結果を見ると、日本語指導が必要な中学生等の進学率や中退率に課題が見える。</p> <p>指導対象児童生徒5名に対して、教師1名の加配をしている。加配教諭を複数加配している学校がある。</p> <p>横浜市内の小中学校で、国際教室が設置されている学校は、令和元年度から令和5年度までに1.5倍に増加している。</p> <p>○横浜市の日本語支援事業について。</p> <p>外国籍や外国につながる児童生徒の受入方法や指導拠点、指導の具体、学校ガイドンス、プレクラス、日本語教室、母語支援ボランティア活用等について。</p> <p>児童生徒が国際教室で学んだことを在籍学級でもいかせる場面を設け Output する機会を多くすることが大切である。また、逆に在籍学級で学んだことについて Output できる機会を国際教室でも設定することが、言葉の獲得には有効である。そのためにも、可能な限り国際教室の指導者と担任が連携をしていくことが重要である。</p> <p>○外国人児童生徒のためのJSL型アセスメントDLAの実施についての演習。</p> <p>DLAの概要と理論についての講義</p> <p>DLAの実施方法</p> <p>「導入会話」「語彙力チェック」「DLA(話す)」「DLA(読む)」について。</p> <p>実際のDLA実施場面を録画した動画を視聴しながら、診断シートを用いて対象児童を評価した。参加者それぞれの評価を基に周囲の参加者とその評価について協議を</p>				

(様式3)

	<p>する演習に取り組んだ。</p> <p>個々の実施者の評価は主観によるところが多いため、他者の評価とすり合わせていくことがとても大切である。</p> <p>導入会話や語彙力チェックでは、指導をする場面ではないため、言えなかった単語についてその場で指導をする必要はない。</p> <p>DLA 実施中は、児童生徒を褒め、楽しいと感じてもらえるような声かけが必要である。</p> <p>児童生徒の日本語習得には、心の問題、見取りの問題、教材の問題があること。児童生徒本人に、日本を受け入れる気持ちがあるかどうかは日本語習得を左右する場合が多い。言語習得には時間がかかることもあるため、日本語習得がなかなか進まない児童生徒に対して指導者がすぐに他の問題があるのではと考えてしまうことも課題となることがある。</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>○今年度内に各日本語指導担当者が一度はDLA（導入会話、語彙力チェック、DLA（話す））を実施し、担当している児童生徒の実態を把握する場面を設ける。その結果を基に、指導方針を見直し、今後の指導にいかしていく取組をしていきたい。</p>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。